我が家は避難が必要？どこに、どうやって？

自宅が安全か、危険かで判断

自宅が安全なら「在宅避難」の検討を
安全な親戚・知人宅への避難も選択肢のひとつ
新型コロナが流行していても危険なら迷わず避難

「避難」するということは、今いる場所より安全な場所へ移動することです。

台風や豪雨などの非常時に、自宅が洪水や浸水、土砂災害などのおそれがある危険な場所にあるのか、あるいは安全な場所にあるのかは、市が配布したハザードマップで確認することができます。ハザードマップには、「洪水浸水想定区域」や「土砂災害警戒区域等」、浸水した場合に想定される水深、避難所の位置が示されています。

避難する場所は、指定避難所だけではありません。自宅が安全な場所なら「在宅避難」を検討してください。安全な親戚や知人宅へ避難することも選択肢の一つです（左下の表でシミュレーションを）。

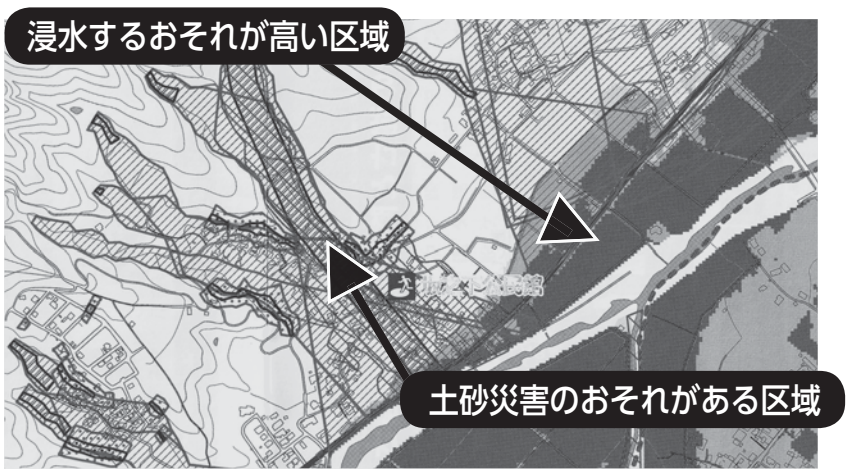
特に、夜間、豪雨時の避難は危険ですので、車での移動は控え、2階以上や山と反対側の部屋といった自宅の少しでも安全な場所に移動するなど、命を守る最善の行動を取るようにしましょう。

なお、自宅が「洪水浸水想定区域」や「土砂災害警戒区域等」にある場合には、仮に新型コロナウイルス感染症が流行していても、災害の危険があれば、迷わず、避難するようにしてください。

◎災害発生のおそれのある区域にある指定避難所などは、災害の規模や種類、現地の状況に応じて、市が開設の可否を決定しますので、避難所の開設情報を確認してください。

自宅は安全？危険？ハザードマップを確認しよう

「洪水・土砂災害ハザードマップ」をご用意ください。市ホームページからもダウンロードできます。



最新の洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域などを確認

洪水浸水想定区域は河川ごとに、土砂災害警戒区域などは小学校区ごとに、県が順次、調査・指定しています。

洪水浸水想定区域は、浸水した場合に想定される水深により、５段階でランク付け（色分け）されています。

以前は、警戒や浸水の区域でなかった場所が、新たに指定される場合がありますので、最新の区域をハザードマップなどで確認するようにしてください。最新の土砂災害警戒区域は、県土砂災害情報提供システム「土砂災害マップ」で確認できます。

自分がとるべき避難行動を確認しよう

ハザードマップで自分の家を確認し、印をつけてみましょう

↓

家がある場所は警戒や浸水等区域に入っていますか？

- いいえ → 区域外でも、周りと比べて低い土地や崖のそばなどに住んでいる人は、市からの避難情報を参考に、必要に応じて避難してください。
- はい ↓

災害の危険があるので、原則、自宅の外に避難が必要です

- 例外 → ①浸水の危険があっても、浸水する深さよりも高いところにいる場合
  ②土砂災害の危険があっても、堅牢（けんろう）なマンションなどの上層階に住んでいる場合などは、自宅に留まり安全を確保する「在宅避難」も可能です。

↓

ご自身または一緒に避難する人は避難に時間がかかりますか？

- はい ↓ **安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？**
  - はい → **警戒レベル３**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → **警戒レベル３**が出たら、市が指定している**指定避難所に避難**しましょう
- いいえ → **安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？**
  - はい → **警戒レベル４**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → **警戒レベル４**が出たら、市が指定している**指定避難所**に避難しましょう

避難メモを作成してみよう

①自分の家をハザードマップで確認
- □土砂災害警戒区域内
- □土砂災害特別警戒区域内
- □洪水浸水想定区域内（浸水　　m）

②左の避難行動フローをもとに、自分がとるべき行動は？
- □安全な親戚や知人宅へ避難
- □指定避難所へ避難
- □自宅にとどまり安全確保（ただし、必要に応じて避難）

③避難する先は？
（　　）

④避難先へ到着するまでの危険な場所（河川や崖など）は？
（　　）

安否確認
「災害用伝言ダイヤル（171）」
▶伝言の録音方法　⇒　1（録音）　自分（被災地）の電話番号（0XX）XXX-XXXX）　⇒　伝言を録音
▶伝言の再生方法　⇒　2（再生）　被災地の人の電話番号　（0XX）XXX-XXXX）　⇒　伝言の再生
※詳しくは「災害時の電話利用方法」（社）電気通信事業者協会　https//www.tca.or.jp/information/disaster.html